■Ⅳ 章

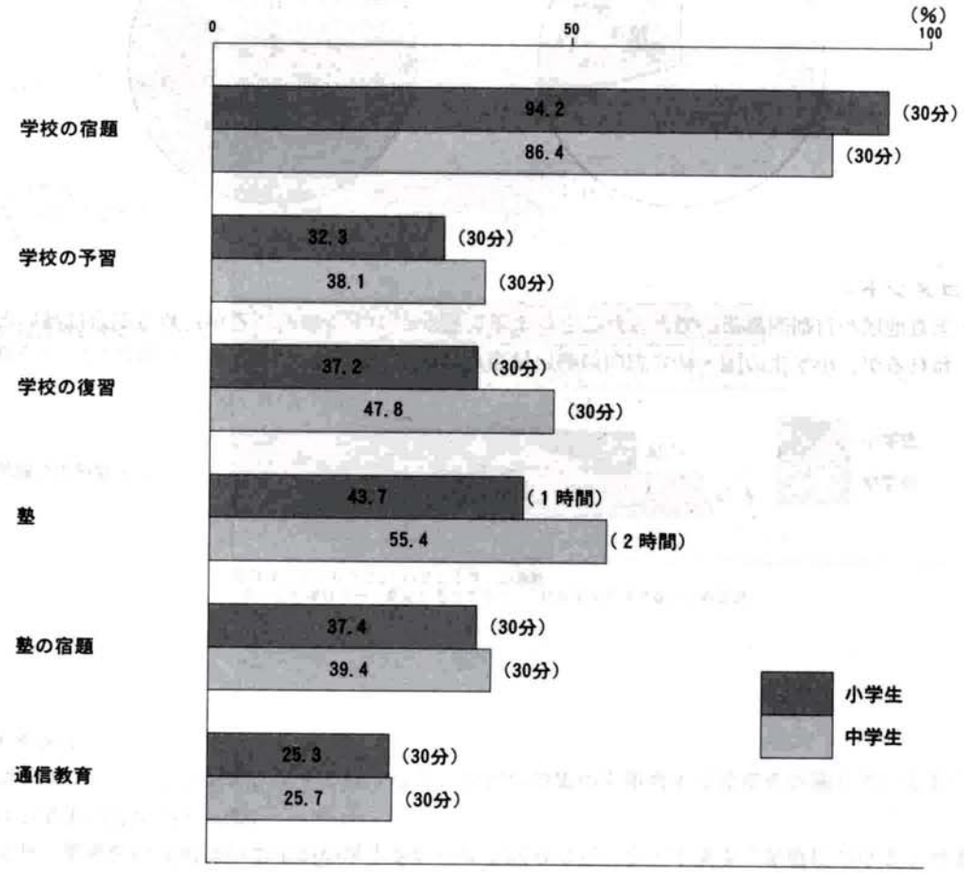
回答の分布状況～単純集計結果より～

親子のクロスなど、詳細な分析・考察は次章以降で触れるが、ここでは、回答の分布状況から子ども・親の実態やその特徴に迫ってみたい。

［子どもの回答状況］

トピック１　学校外学習実態の小・中学生比較

●取り組んでいる子どもの割合（取り組み時間のモード）

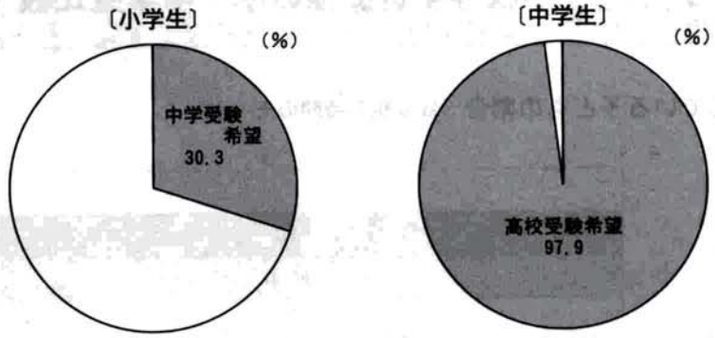


〈コメント〉

・学校の宿題に取り組む割合は、小学生が中学生を上回る。
・学校の予習・復習では、中学生が小学生を上回り、特に復習でその差が大きい。
・塾・通信教育の利用率の合計は、小学生で約70%、中学生で約80%と学校外学習の日常に深く浸透している。

トピック2　小・中学生の受験希望

～小学生の３人に１人が中学受験希望～

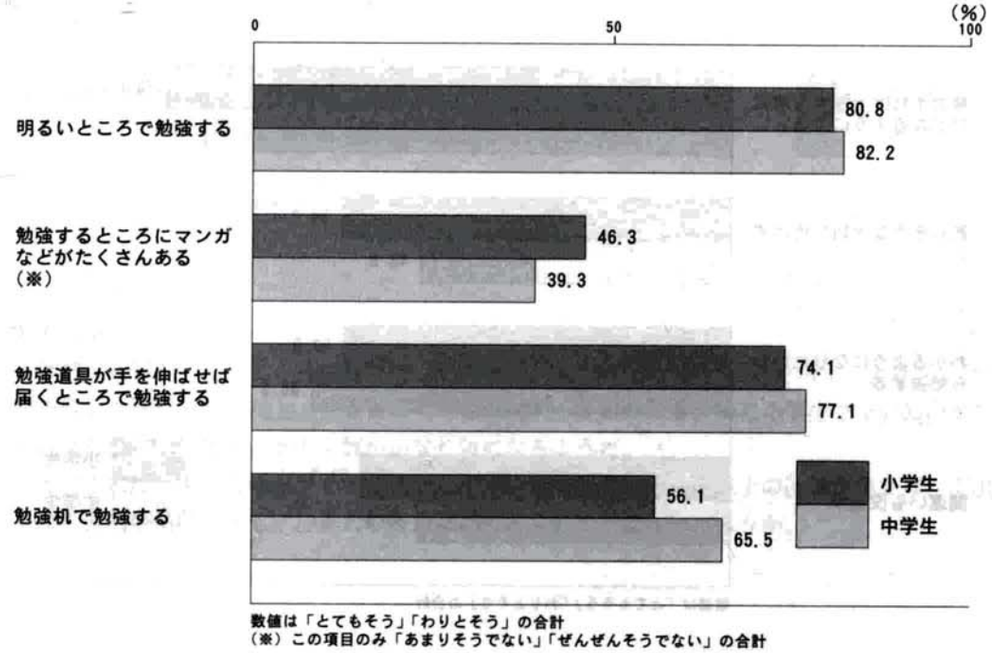


〈コメント〉

・調査地域が首都圏都市部であったことによる影響か、中学受験希望者が占める割合は高いと思われるが、小学生の国・私立志向の勢いは衰えていない。

トピック3　子ども自身による学習環境作りの実態

＊子ども自身による（物的）学習環境への働きかけをたずねた項目で、半数以上の回答、もしくは小・中学生間での差が大きかったのは、以下の項目。



数値は「とてもそう」「わりとそう」の合計
（※）この項目のみ「あまりそうでない」「ぜんぜんそうでない」の合計

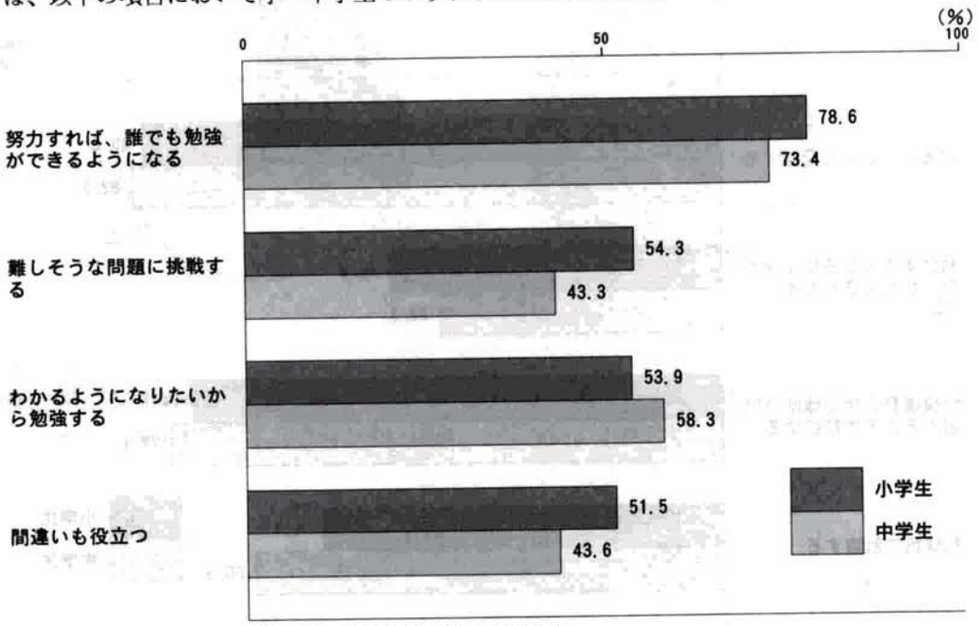
〈コメント〉

・マンガ、テレビ、ラジオ、ファミコンなど、学習への集中を阻害する要素を排除している割合は小学生の方が高かった。

・反面、学習机の使用は中学生が小学生を約10%上回るなど、小・中学生の家庭における学習場面（状況）の違いがうかがわれる。

トピック4　小・中学生の学習観①
～「努力すれば、誰でも勉強ができるようになる」～

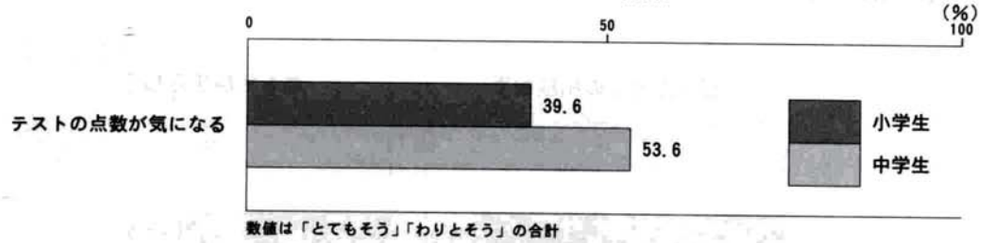
＊学習目標志向性（学習を通して理解を深めたり能力を伸ばそうとする傾向）をたずねた質問では、以下の項目において小・中学生のいずれかが50％を超えた。



数値は「とてもそう」「わりとそう」の合計

トピック4　小・中学生の学習観②
～「テストの点数が一番気になる」中学生～

＊遂行目標志向性（学習を通して他者よりも能力が高いことを示そうとする傾向）をたずねた質問で、小・中学生のいずれかが50％を超えたのは以下の１項目。



数値は「とてもそう」「わりとそう」の合計

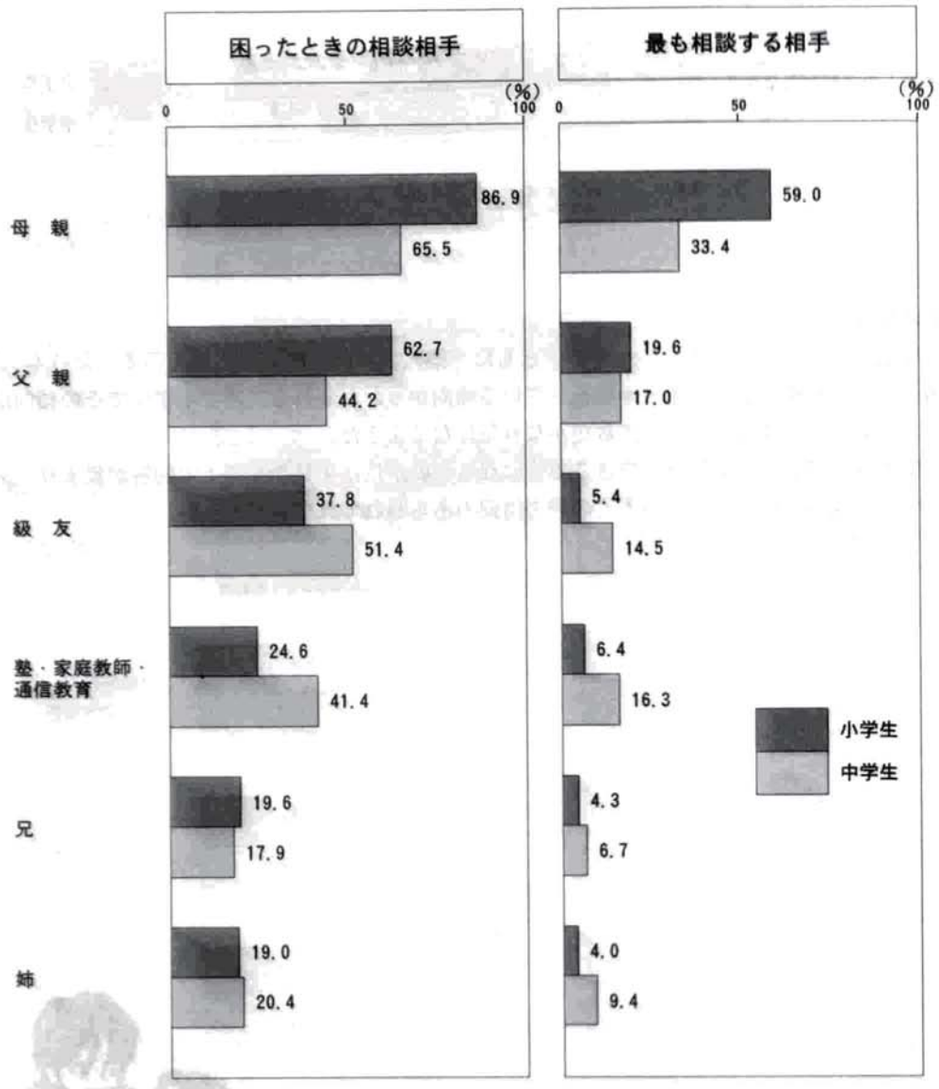
〈コメント〉

・「学習する目的」として、小・中学生ともに「他人より能力が高いことを示す」よりも、「学習を通じた理解・能力向上」を重視している傾向がうかがわれる。特に小学生でその傾向が高く、反対に中学生はテストの点数がかなり気になるようだ。

・「努力すれば、誰でも勉強ができるようになる」の項目は４分の３以上の回答が集まり、突出した学習観の傾向である。日本人の努力信仰のあらわれではないだろうか。

トピック5　一人学びで困ったときの相談相手
～中学生で級友・塾講師が急増～

＊「家庭で一人で学習していて困ったときに相談する相手（複数回答）」、「最も相談する相手」という質問についての回答結果。



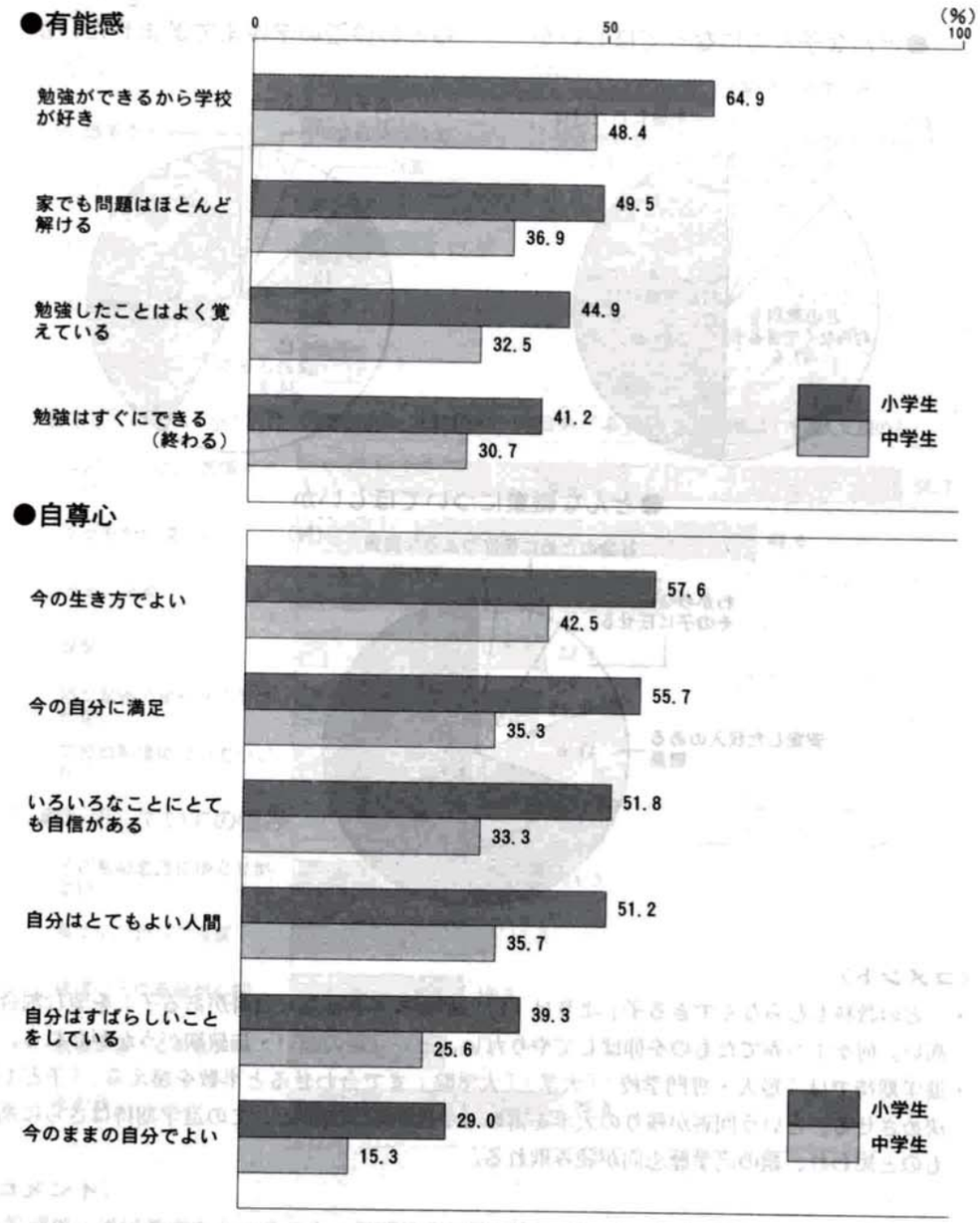
〈コメント〉

・小・中学生とも身近な存在である母親を最も頼りにしているが、発達や学習内容の複雑化、通塾などの物理的な学習環境の変化に伴い、中学生では級友、民間教育機関への依存度が急増し、父親のそれとほぼ並ぶ。

・ここではデータとして示されていないが、相談相手を選ぶ理由として、相手との人間関係（自分を理解してくれる・その人が好き、など）をより重視する傾向が、小学生にみられた。

トピック6　自己観（有能感・自尊心）の小・中学生比較

＊子ども自身の有能感・自尊心に関する質問項目で、小・中学生間に差が認められたのは以下の項目。



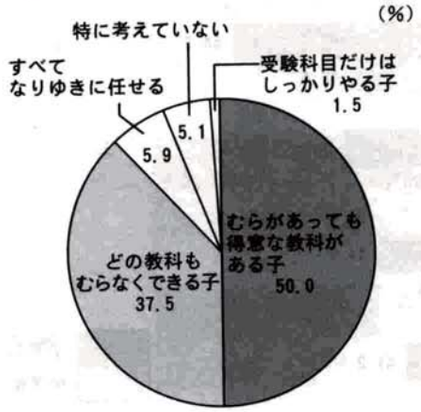
〈コメント〉

・有能感・自尊心ともに、中学生の低さが目立つ。特に、自尊心については、かなり低い数値となっている。

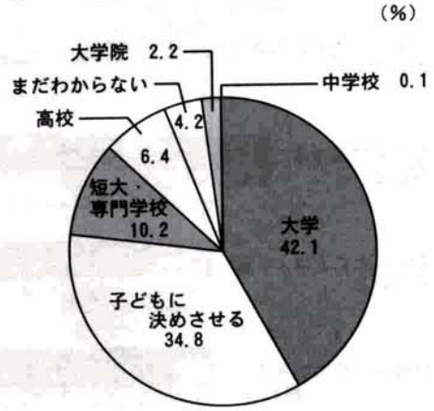
［親の回答状況］

トピック１　子どもへの期待・願い

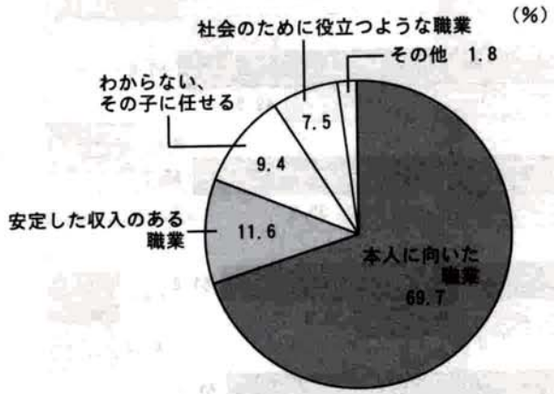
●どんな子どもになってほしいか



●どの段階の学校まで進ませたいか



●どんな職業についてほしいか



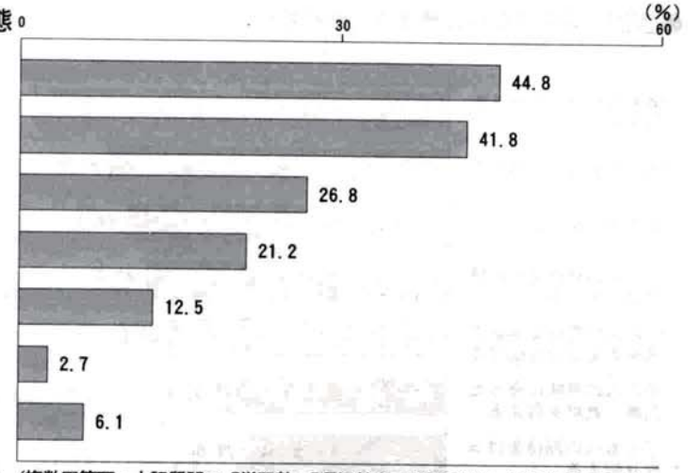
〈コメント〉

・「どの教科もむらなくできる子」よりは「むらがあっても得意な教科がある子」を望む割合が高い。何か１つ秀でたものを伸ばしてやりたい、という親の願い・価値観がうかがわれる。

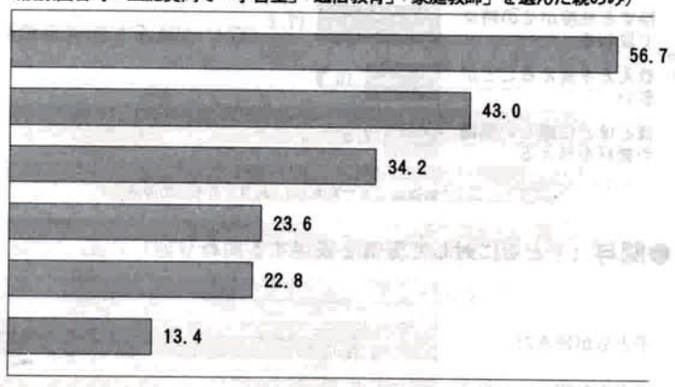
・進学期待では「短大・専門学校」「大学」「大学院」まで合わせると半数を超える。「子どもに決めさせる」という回答が残りの大半を占めることから、実態としての進学期待はさらに高いものと思われ、親の高学歴志向が読み取れる。

トピック２　学校外教育の利用実態と意識

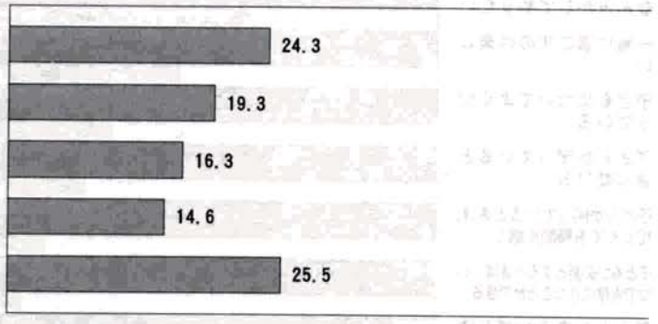
●学校外教育の利用実態（複数回答可）



●利用している理由（複数回答可：上記質問で「学習塾」「通信教育」「家庭教師」を選んだ親のみ）



●利用していての悩み



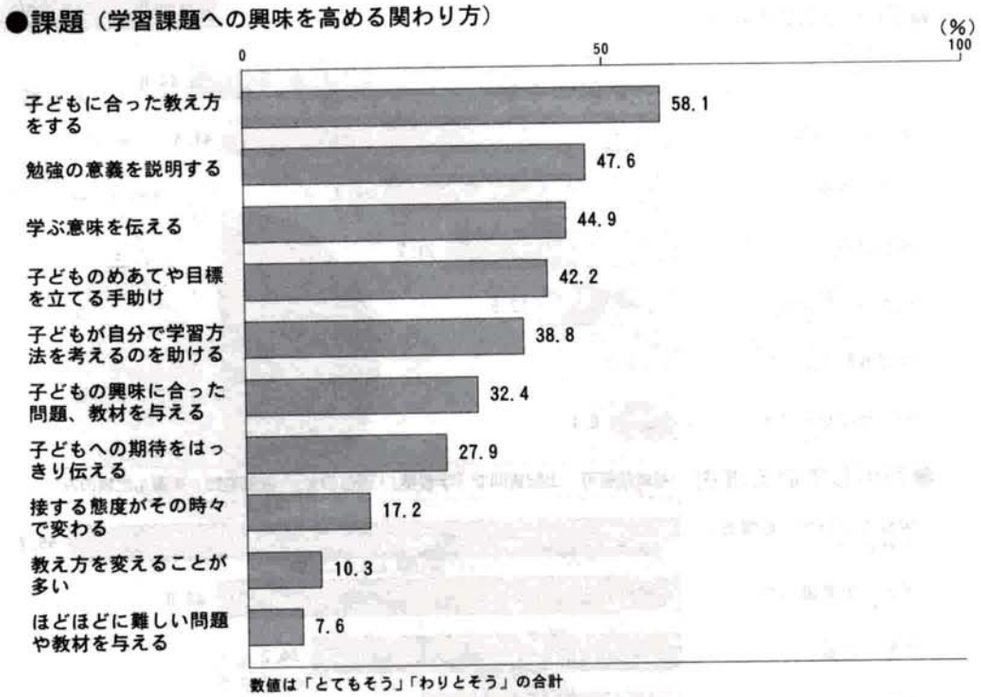
〈コメント〉

・学習塾・通信教育を合わせると、民間教育機関の利用率はのべ70％に迫る。

・民間教育機関利用の理由では、「学習習慣形成」という回答が半数以上を占める。また、子ども自身の希望による利用も４割以上を占める。進学を目的として挙げている保護者は、全体の４分の１程度であった。

トピック3　子どもへの関与の実態

●課題（学習課題への興味を高める関わり方）

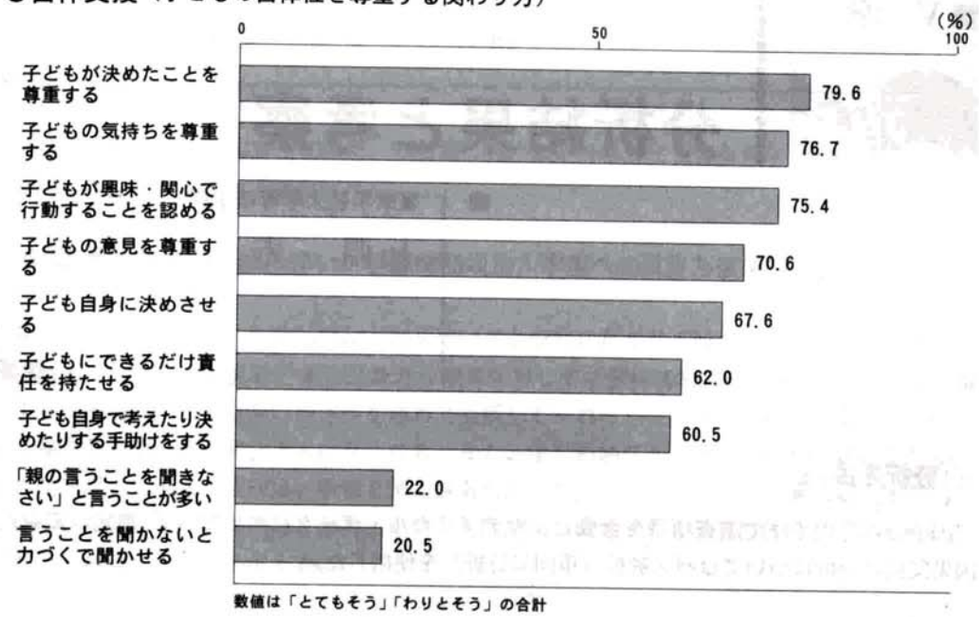


数値は「とてもそう」「わりとそう」の合計

●関与（子どもに対して愛情を表現する関わり方）

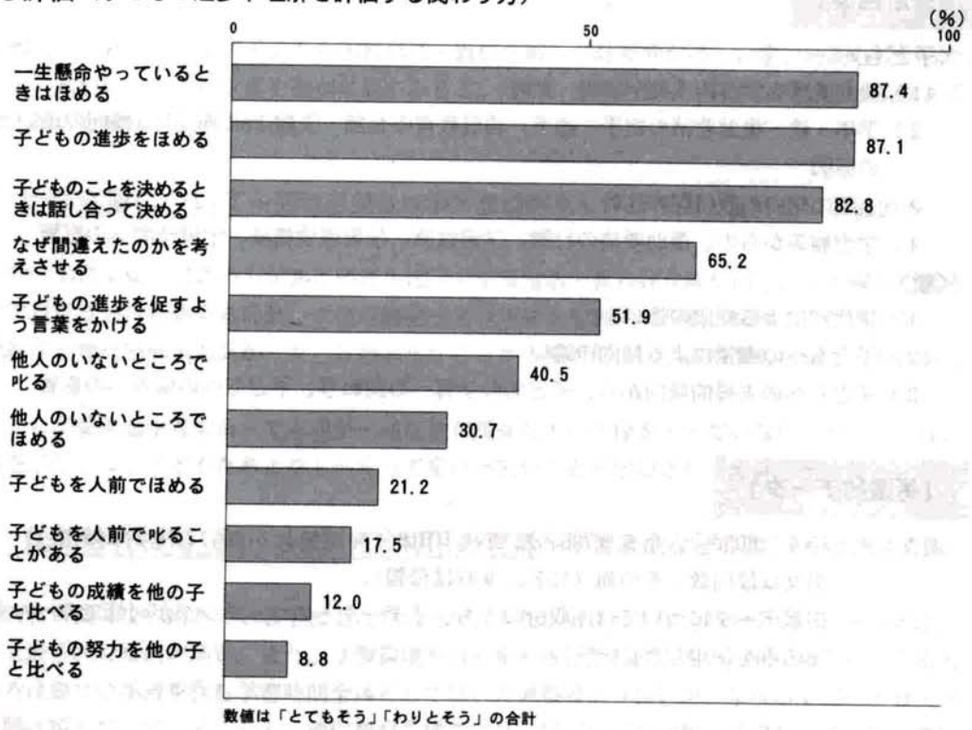
数値は「とてもそう」「わりとそう」の合計

●自律支援（子どもの自律性を尊重する関わり方）



数値は「とてもそう」「わりとそう」の合計

●評価（子どもの進歩や理解を評価する関わり方）



数値は「とてもそう」「わりとそう」の合計

〈コメント〉

・子どもとの関わりの中で、愛情表現をしたり、子どもの成長を受け入れる親が多いという傾向が強くうかがわれる。反面、「学習課題への興味を高める関わり方」は弱い。